

There are many **benefits** of reading books **aloud** to young children.

Psychologists, doctors, teachers, and librarians **encourage** parents **<to read>** aloud on a **regular** basis / **<to assist>** the development of the child and build strong family relationships.

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

- Children receive a great deal of benefit from listening to books read aloud by their parents. ()
- Parents don't get any benefit through reading books aloud to their children. ()
- Children do better academically after regularly listening to stories read by their parents. ()

覚えておきたい表現

名詞+for ~ to do 「～が…する(名詞)」(不定詞の形容詞用法)

ℓ.2 : reading aloud is a wonderful opportunity **for** parents **to spend** time in close contact with their children 「声に出して読むことは、親にとって自分の子供と親密な触れ合いの時間を過ごす素晴らしい機会である」

• opportunity + to do の to 以下は**不定詞の形容詞用法**なので「…する機会」という意味になる。これに不定詞の意味上の主語 for ~ を付け加えて opportunity + for ~ + to do とすると「～が…する機会」という意味になる。ここでは「親が…の時間を過ごす素晴らしい機会」ということ。

• in close contact with ~ 「～と親密に交流しながら〔触れ合いながら〕」。

Ex. I hear you are **in close contact with** him. 「彼と親しい交際をしているそうだね。」

encourage A to do 「Aに…するようにすすめる」

ℓ.12 : **encourage** parents **to read** aloud on a regular basis 「定期的に読み聞かせをすることを、親にすすめている」

• encourage A to do : 「Aに…するようにすすめる」。

Ex. Jane **encouraged** me **to see** a doctor immediately. 「ジェーンは私に、すぐに医者に診てもらおうようにすすめた。」

• on a regular basis 「規則正しく；定期的に」：on a ~ basis 「原則として～で」。on a monthly basis 「毎月」、on a weekly basis 「毎週」。

Ex. The art club met **on a weekly basis**. 「美術部の活動は週に1回でした。」

整理しよう！*段落要旨・構造*

子供に本を読んであげることには多くの利点がある。

◆ ℓ.2 **First** 「第1に：列挙・追加」

1. 親にとって子供と親しく触れ合う機会・家族のリラックスの時間

◆ ℓ.5 **Another** ~ 「別の～は：列挙・追加」

2. 重要な特徴：深い思索や道徳的なメッセージを親子が一緒に考えられること

◆ ℓ.7 **In addition** 「さらに：列挙・追加」

3. 語彙や文構造を学ぶ助けになること

◆ ℓ.8 **Moreover** 「そのうえ：列挙・追加」

4. 学習意欲を刺激し脳の発達を促すこと

→ 学校の成績が上がったという研究報告あり。

結論 心理学者、医者、教師、図書館司書は親に定期的に読み聞かせをするよう奨励している。

→ 子供の発育を助け、家族の絆を強めるため。

背景知識

●読み聞かせのメリット

子供への本の読み聞かせは、親子の共通体験や、子供の言語能力の構築などといった面でメリットがあるとされる。また、感性の発達・読書体験への結びつきという面でも効果は大きい。テレビやビデオなどの中で、言わば「パッケージ化された」言葉に触れることと比べると、読み聞かせの場合は読み手が聞き手の反応を見ながら生の声で場面の盛り上げができ、子供の方も話を聞き漏らすまいと集中力を身に付けることができる。さらに、子供自身による想像の余地が十分にあることによって、子供の想像力や表現力も養われるとされる。幼児期に、こうした聴覚から他の感性を磨くことを目的にした言葉の世界に親しむことができれば、年齢を経た後でもさまざまな効果が期待できると言われている。「読書離れ」が叫ばれるようになった昨今でも、小さい頃から読み聞かせによって本に親しんできた子供は、成長した後もよく本を読むようになる。このように、さまざまな効果が期待できる読み聞かせは、家庭以外でも、学校、図書館などで実施されている。

深めたい人に：笹倉剛『心の扉をひらく本との出会い』(北大路書房、2002年)